

お客様各位

大建工業株式会社

防耐火認定書類（写）の使用に際してのご注意

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は弊社製品をご採用またはご検討いただき誠に、ありがとうございます。

ご要望の表記資料を使用いただく際に、注意していただきたい事項がございます。下記事項を、ご確認、ご了解の上、ご利用いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 認定書は、防耐火構造上、国土交通大臣に認められた構造仕様の範囲を示すものです。外壁の仕様、断熱材など各資材は、認定書に記載されている仕様を満たすものを選定するようにお願いいたします。（認定範囲外となった場合、防耐火構造の性能上の問題が生じるおそれがあります。）実際の設計、施工においては、認定書と共に弊社および各材料メーカーのカatalog、施工要領書に記載の事項をご確認いただき、それに従ってください。
2. 各防耐火認定ごとに、建物及び下地の構造（軸組/枠組、木製/鋼製 など）、外装仕上がり材の仕様（基材、厚さ、形状等）、工法（通気、直張り、充填断熱、外張り断熱等）、断熱材の仕様、屋内側防火被覆材（内装材）の指定の有無など認定範囲が異なりますので十分ご確認ください。
3. 認定書は、認定書構造をご採用いただいた物件の確認申請、あるいは防耐火構造としての仕様確認のためにご提供するものです。本来の目的以外ではご使用されないよう、お願いいたします。
4. これらの注意点は新築時だけではなく、外壁や断熱の改修時にも配慮が必要となります。ご留意のほどよろしくお願いいたします。

以上

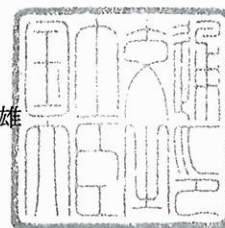
2025/7/2 改訂

認 定 書

国住指第2380号
平成 18年 1月 19日

大建工業株式会社
代表取締役社長 井邊 博行 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第八号並びに同法施行令第108条第一号及び第二号(外壁(耐力壁):各30分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PC030BE-0720

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

フェノールフォーム保温板充てん／木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・火山性ガラス質複層板表張／木製軸組造外壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

フェノールフォーム保温板充てん／木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・火山性ガラス質複層
板表張／木製軸組造外壁

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
壁高さ	構造計算により構造安定性が確かめられた寸法
壁厚さ	138mm以上
柱、間柱間隔	500mm以下

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
柱 (荷重支持部材)	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 寸法：105mm×105mm以上
間柱	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 寸法：30mm×105mm以上
外装材	材料：窯業系サイディング（JIS A 5422） （以下「サイディング」という） ①、②又は③ 組成： ①木繊維補強セメント板 （JISの難燃2級以上） A) 木繊維混入セメント・けい酸カルシウム板 けい酸カルシウム化合物 70～80 質量％ 有機質繊維 10～15 質量％ 無機質繊維 0～5 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 10～15 質量％ B) 硬質木片セメント板 セメント質原料 73～78 質量％ 木片 22～27 質量％ ②繊維補強セメント板 （JISの難燃1級） セメント質原料 65～85 質量％ 有機質繊維 2～8 質量％ 無機質繊維 0～6 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 7～30 質量％ ③繊維補強セメント・けい酸カルシウム板 （JISの難燃1級） けい酸カルシウム化合物 65～96 質量％ 有機質繊維 0～5 質量％ 無機質繊維 0～4 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 0～30 質量％ 但し、 ・ 繊維質原料 有機質：木繊維、パルプ、ポリビニルアルコール、 ポリプロピレン 等 - 無機質：ガラス繊維、ロックウール、マイカ、セラミック繊維等 ・ 混和材 有機質：木粉、珪ルネース、撥水剤 等 - 無機質：ポーライト、炭酸カルシウム、タルク、シラスパルーン 等

つづき

外装材	表面塗料： 種類：①～⑥の一 ①アクリル樹脂系塗料 ②アクリル樹脂系塗料 ③アクリルシリコン樹脂系塗料 ④ふっ素樹脂系塗料 ⑤エポキシ樹脂系塗料 ⑥ポリシリコン樹脂系塗料 塗布量：200g/m²以下（有機固形分） 密度：1.1±0.2Mg/m³ 形状： 1)外形寸法 厚さ：12mm～25mm ・厚さ：12mm～14mmの場合 - 幅：最小400mm～最大1210mm - 長さ：最小1820mm～最大3640mm ・厚さ：15mm～25mmの場合 - 幅：最小303mm～最大910mm - 長さ：最小910mm～最大3640mm 2)端部形状（サイディング 相互の重なりと隙間） 重なり：6mm以上 隙間：3mm以下 3)断面形状 厚さ：12mm～25mm ・厚さ：12mm～14mmの場合 - 最小板厚(中実部)：8mm以上 - 模様深さ：容積欠損率：8%以下 （但し、板厚12mmを超える場合は裏面から12mmの位置での欠損率とする） ・厚さ：15mm～25mmの場合 - 最小板厚(中実部)：11mm以上 - 模様深さ：容積欠損率：11%以下 （但し、板厚15mmを超える場合は裏面から15mmの位置での欠損率とする） ・中空率：37%以下 （但し、板厚15mmを超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増すことができ、中空率を上げることができる） 張り方：①又は② ①横張 ②縦張
構造用面材	材料：火山性ガラス質複層板（JIS A 5440） 厚さ：9mm以上
断熱材	材料：①、②又は③ ①フェノールフォーム保温板(JIS A 9511) 1種2号 厚さ：35mm～105mm 1種1号又は2種2号 厚さ：40mm～105mm 2種1号 厚さ：45mm～105mm ②グラスウール保温板（国土交通大臣認定不燃材料:NM-8605） 密度：10K又は16K 厚さ：60mm～105mm 密度：24K又は32K 厚さ：50mm～105mm ③ロックウール保温材（国土交通大臣認定不燃材料:NM-8600） 密度：40K以上 厚さ：50mm～105mm

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
胴縁	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は下地用製材 寸法：12mm×40mm以上、外装材目地部 12mm×40mm以上2列
受材	(構造用面材に縦方向の繋ぎがある場合に使用) 材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は下地用製材 寸法：40mm×40mm以上
防水紙	材料：①又は② ①アスファルトフェルト430 (JIS A 6005) ②透湿防水シート (JIS A 6111)：厚さ0.17mm以下 材質：1)、2)又は3) 1)ポリエチレン 2)ポリエステル 3)ポリプロピレン
目地部材	材料：①～⑤の一 ①シーリング材 (JIS A 5758) 材質：1)～6)の一 1)ポリウレタン系樹脂 2)アクリルウレタン系樹脂 3)ポリサルファイド系樹脂 4)変成ポリサルファイド系樹脂 5)シリコン系樹脂 6)変成シリコン系樹脂 使用量：56g/m以上 ②ハット形ジョイナーとシーリング材(①仕様)の併用 ジョイナー： 材質：1)～11)の一 1)熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) 2)塗装熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) 3)熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) 4)塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) 5)熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) 6)塗装熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) 7)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744) 8)熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) 9)冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) 10)塩化ビニル (但し、①シーリング材56g/m以上充てん) 11)ポリプロピレン (但し、①シーリング材56g/m以上充てん) 厚さ 1)～9)：0.25mm以上 厚さ 10)～11)：0.3mm以上 ③バックアップ材とシーリング材(①仕様)の併用 (但しサイディング厚さが15mm以上の場合) 材質：1)又は2) 1)発泡ポリエチレン 2)発泡ポリスチレン 使用量：2.4g/m以上 ④金属ジョイナー(材質：②1)～9)仕様) 形状：ハット形、H形等 厚さ：0.25mm以上 ⑤なし 本実、合いじゃくり又は突付け目地の場合

つづき

留付け材	外装材固定用： 材料：①、②又は③ ①スクリューくぎ（JIS A 5508）：胴径φ2.2mm×38mm以上 ②リソクくぎ（JIS A 5508）：胴径φ2.2mm×38mm以上 ③タピンねじ（JIS B 1122）：胴径φ3.0mm×25mm以上 留付け間隔：303mm以下 留付け位置：板端部より20mm以上内側
	胴縁固定用： 材料：①～④の一 ①鉄丸くぎ（JIS A 5508）：N50以上 ②ステンレス鋼くぎ（JIS A 5508）：SFN50以上 ③太め鉄丸くぎ（JIS A 5508）：CN50以上 ④十字穴付き木ねじ（JIS B 1112）：胴径φ3.1mm×50mm以上 留付け間隔：500mm以下
	構造用面材固定用： 材料：①～④の一 ①鉄丸くぎ（JIS A 5508）：N50以上 ②ステンレス鋼くぎ（JIS A 5508）：SFN50以上 ③太め鉄丸くぎ（JIS A 5508）：CN50以上 ④十字穴付き木ねじ（JIS B 1112）：胴径φ3.1mm×50mm以上 留付け間隔：周辺部100mm以下、中央部200mm以下
	受材固定用：（受材を使用する場合） 材料：①～④の一 ①鉄丸くぎ（JIS A 5508）：N50以上 ②ステンレス鋼くぎ（JIS A 5508）：SFN50以上 ③太め鉄丸くぎ（JIS A 5508）：CN50以上 ④十字穴付き木ねじ（JIS B 1112）：胴径φ3.1mm×50mm以上 留付け間隔：左右木口付近から斜め打ち二本以上
	防水紙固定用： 材料：工業用テープ（JIS A 5556） 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線（JIS G 4309） 2)鉄線（JIS G 3532） 寸法：幅10mm以上、足長10mm以上 留付け間隔：500mm以下

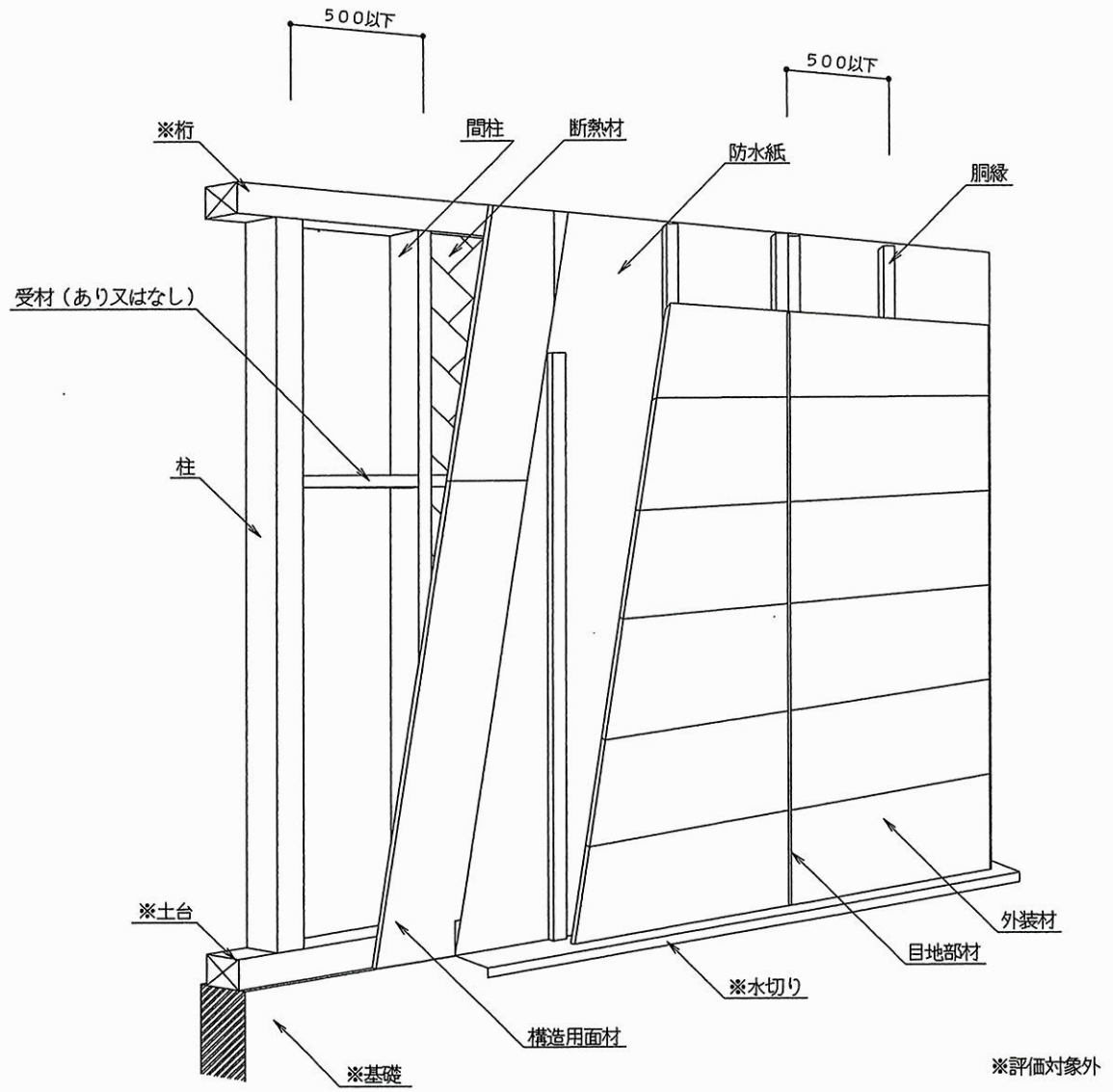
つづく

つづき

留付け材	断熱材固定用： (フェノールフォーム保温板を使用する場合) 材料：①～⑤の一 ①鉄丸くぎ (JIS A 5508)：N50以上 ②ステンレス鋼くぎ (JIS A 5508)：SFN50以上 ③太め鉄丸くぎ (JIS A 5508)：CN50以上 ④十字穴付き木ねじ (JIS B 1112)：胴径φ3.1mm×50mm以上 留付け方法：1)又は2) 1) 断熱材左右木口付近から斜め打ち 2) 断熱材左右木口付近を押さえる形で寸法40mm×40mm以上、厚さ15mm以上の木片を上記①～④で留付ける 留付け間隔：900mm以下 ⑤アルミテープ又はステンステープ 留付け方法：断熱材左右木口付近から柱、間柱に貼り付け (グラスウール保温板又はロックウール保温材を使用する場合) 材料：工業用ステープル (JIS A 5556) 材質：1)又は2) 1)ステンス鋼線 (JIS G 4309) 2)鉄線 (JIS G 3532) 寸法：幅10mm以上、足長10mm以上 留付け間隔：200mm以下
------	---

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図6、目地部材を図7及び外装材の形状を図8に示す。



透視図

図1 構造説明図

外装材横張

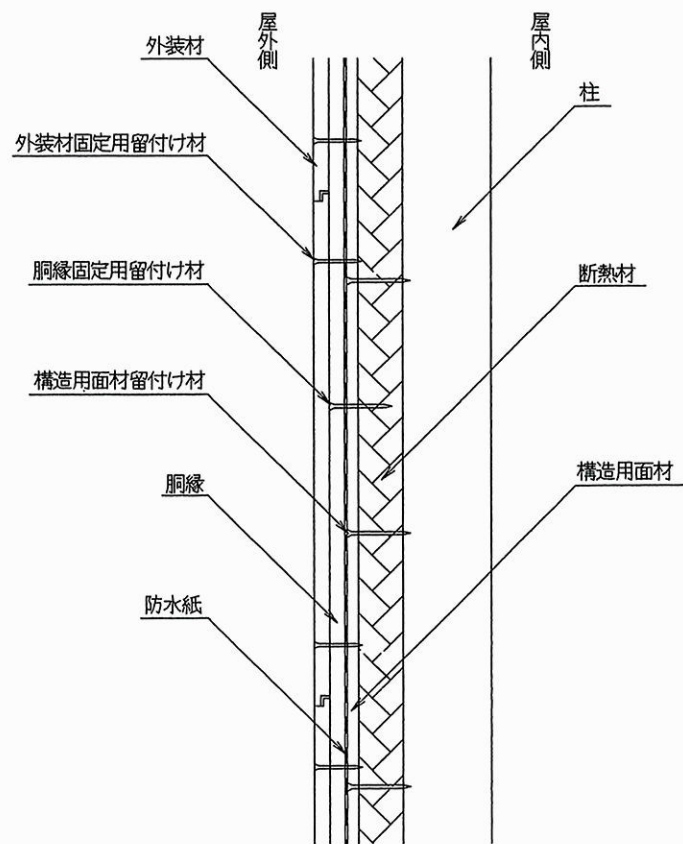
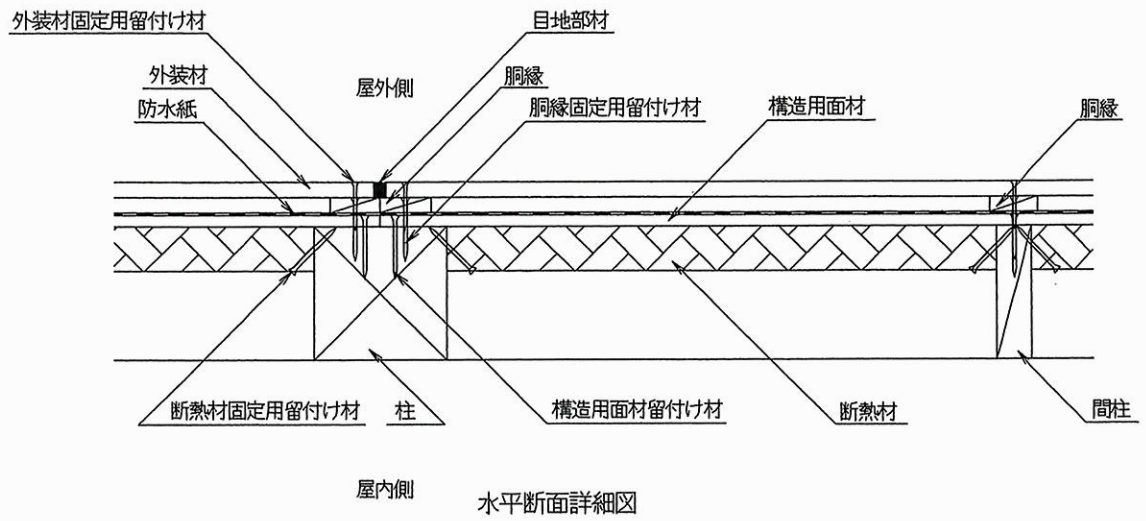


図2 構造説明図

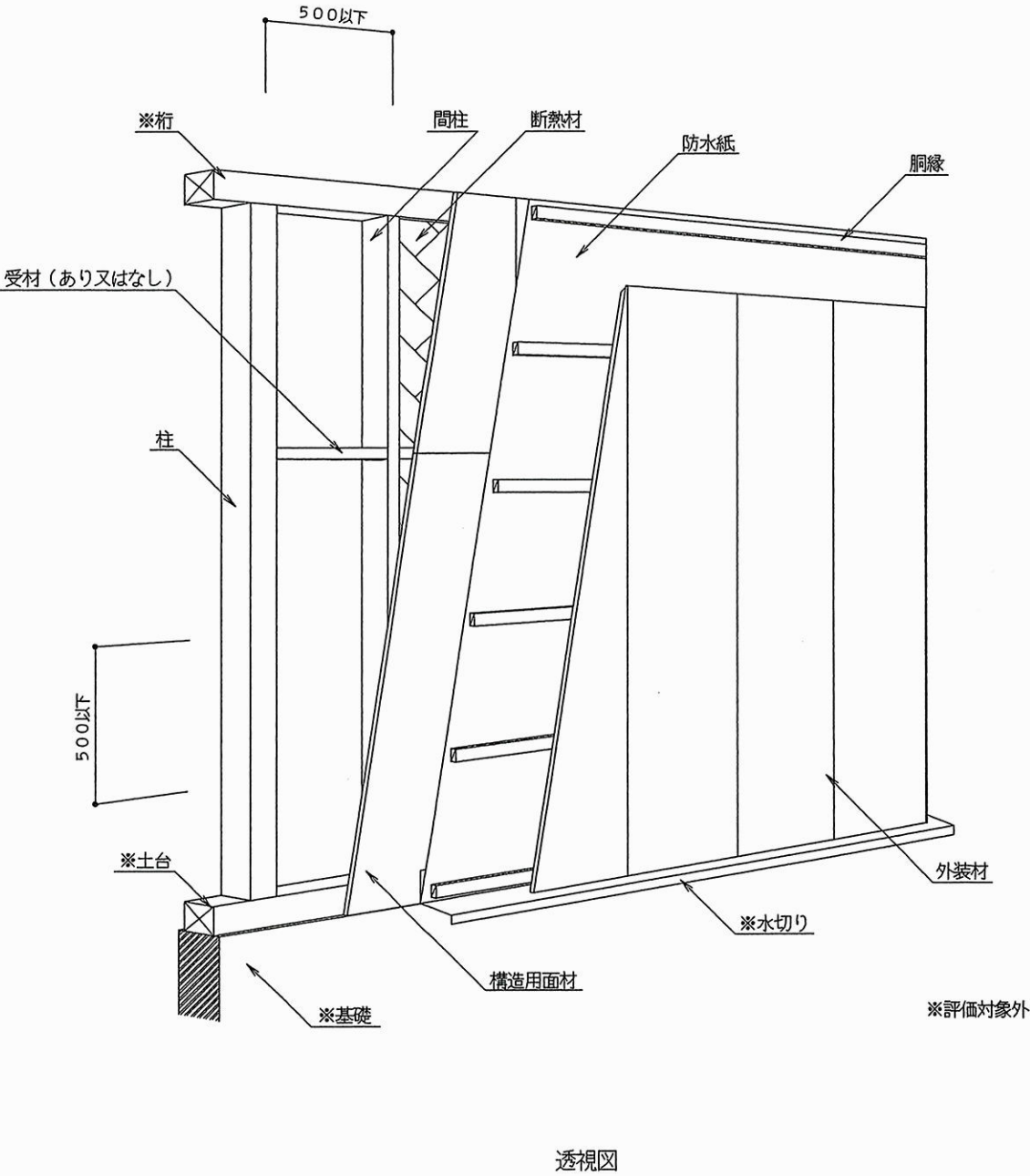


図3 構造説明図

外装材縦張（横胴縁）

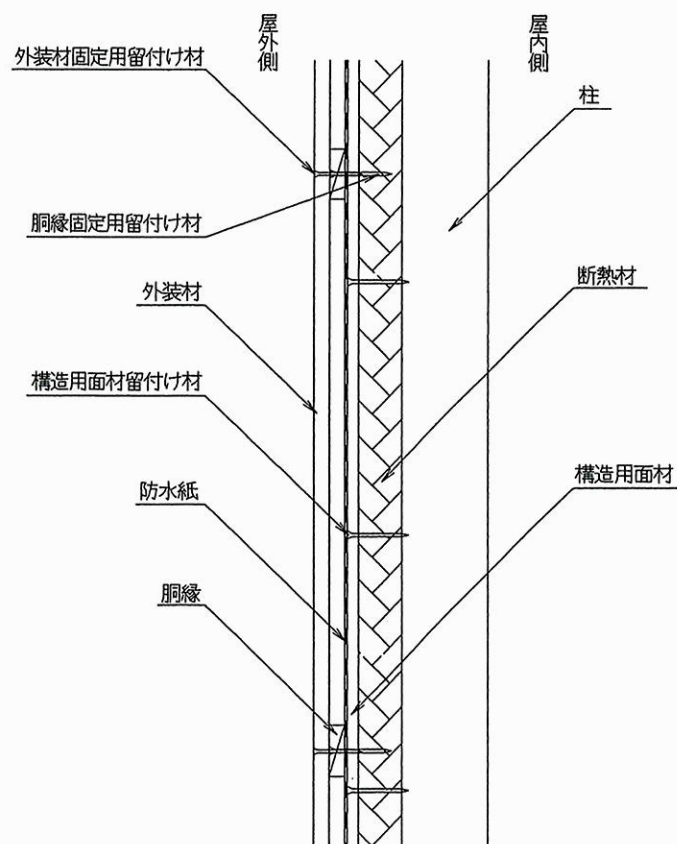
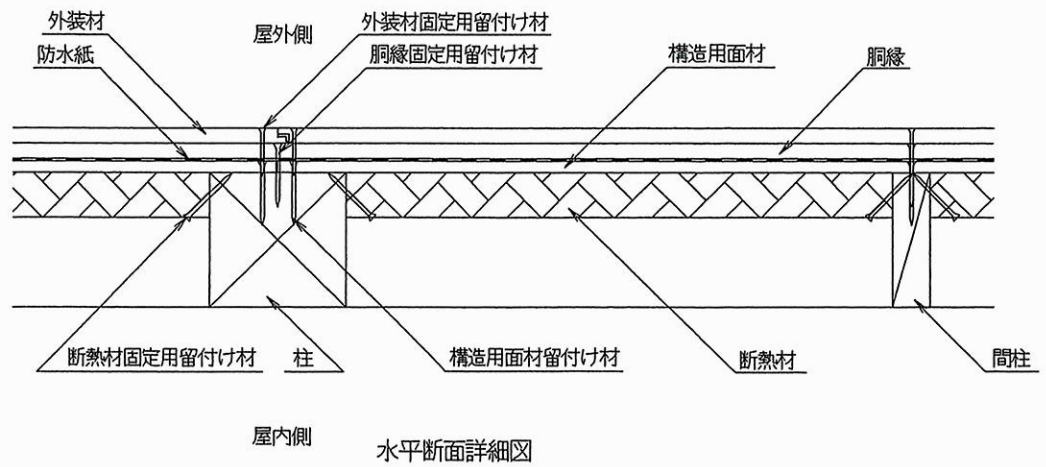
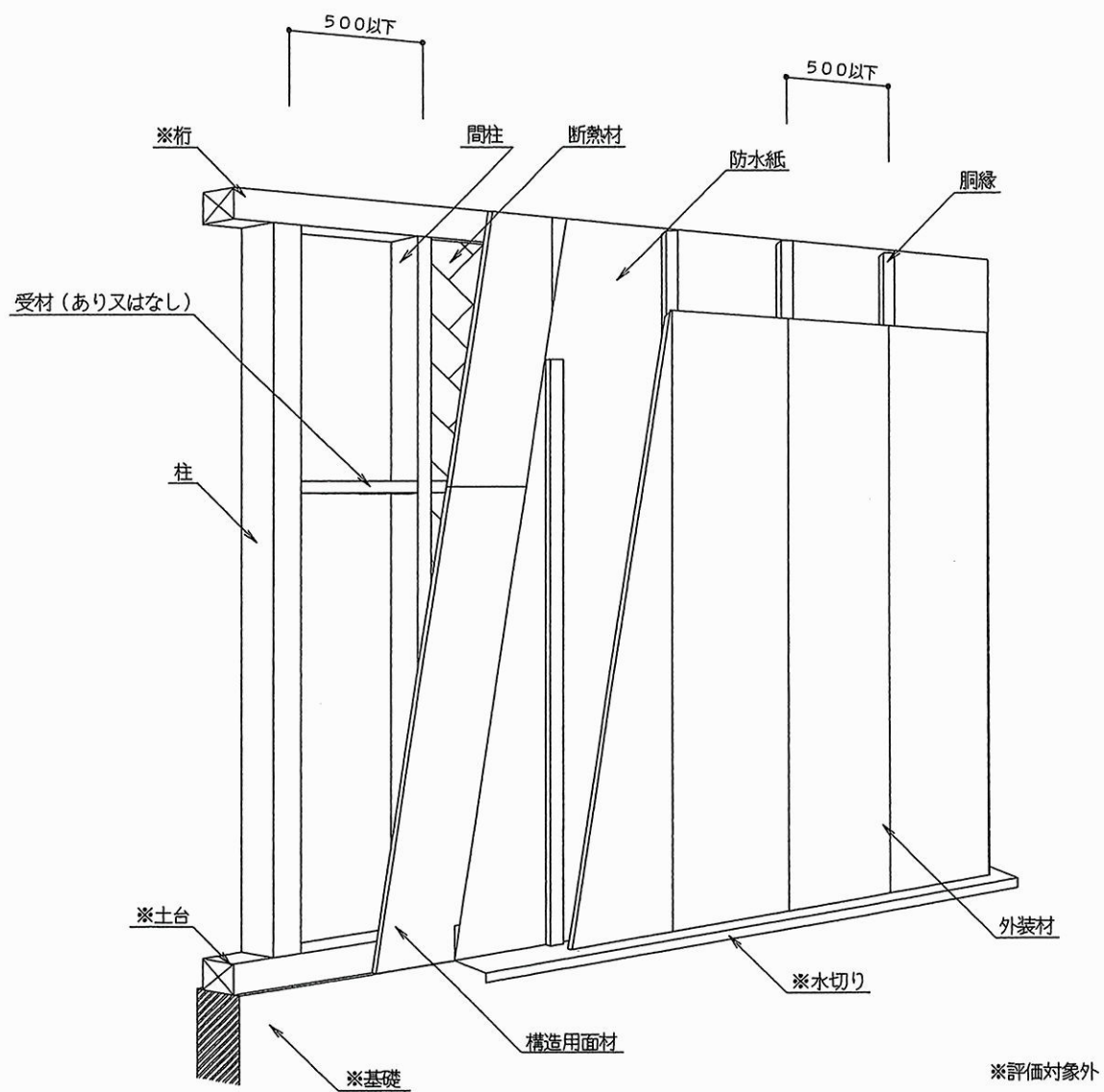


図4 構造説明図

外装材縦張（縦胴縁）

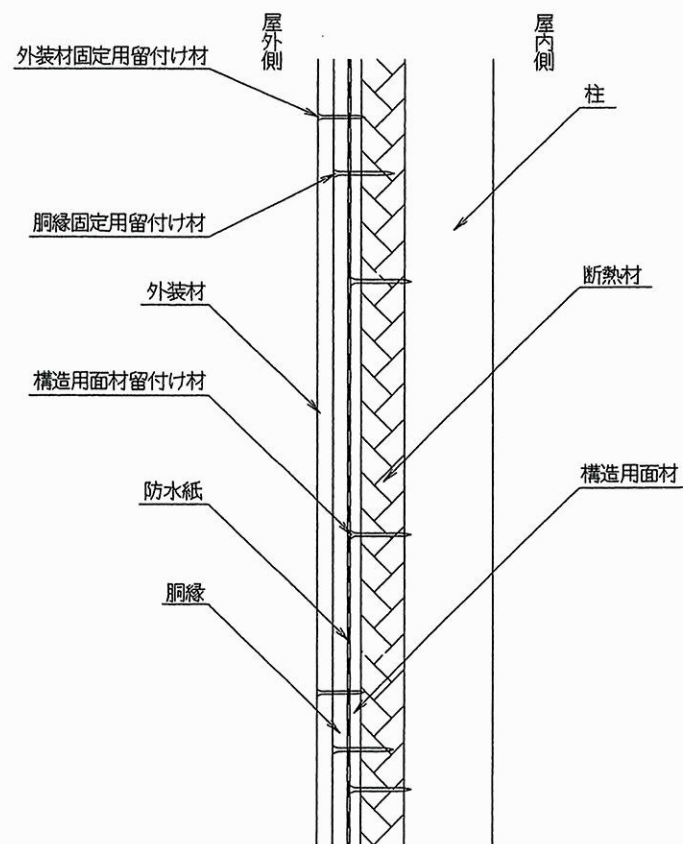
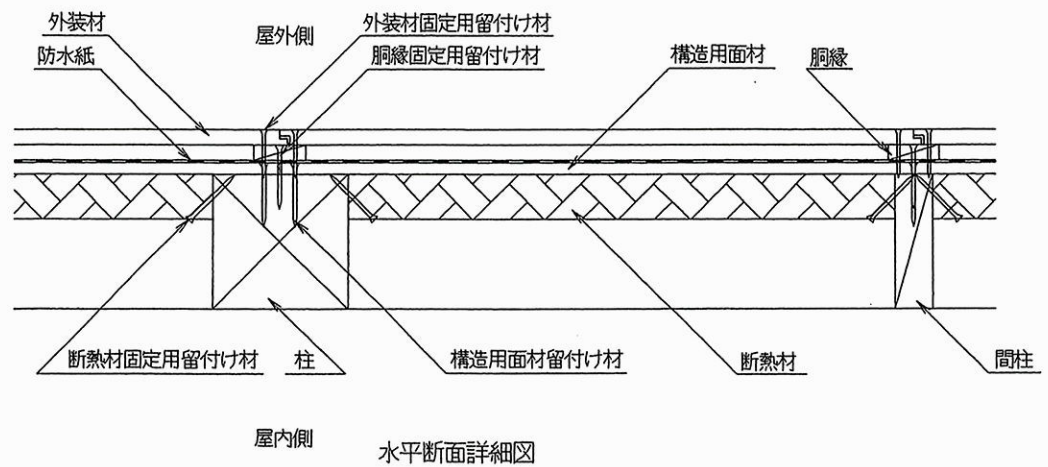
単位mm



透視図

図5 構造説明図

外装材縦張（縦胴縁）



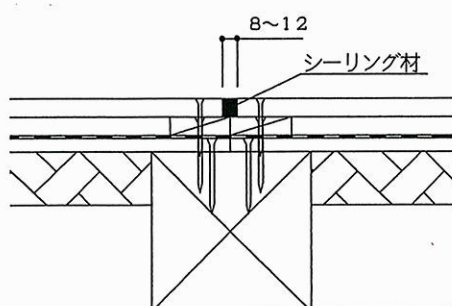
鉛直断面詳細図

図6 構造説明図

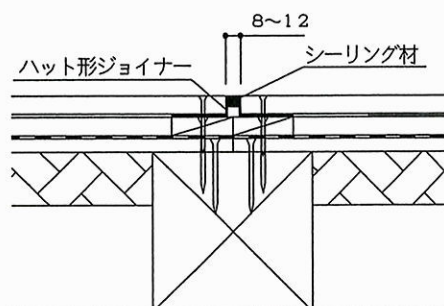
目地部材

単位mm

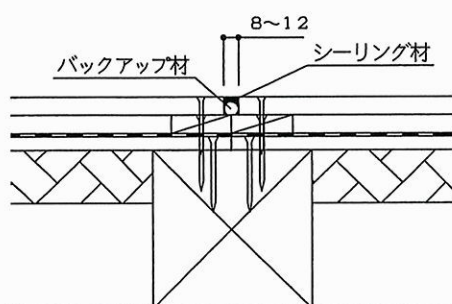
①シーリング材目地



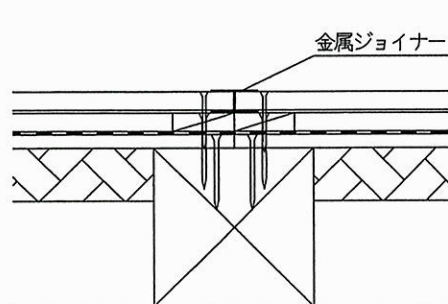
②ハット形ジョイナーとシーリング材の併用目地



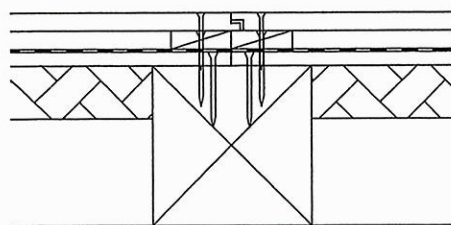
③バックアップ材とシーリング材の併用目地



④金属ジョイナー目地



⑤本実・合いじゃくり目地



⑥突付け目地

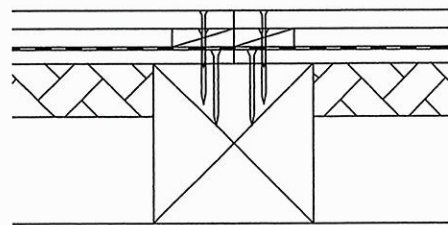
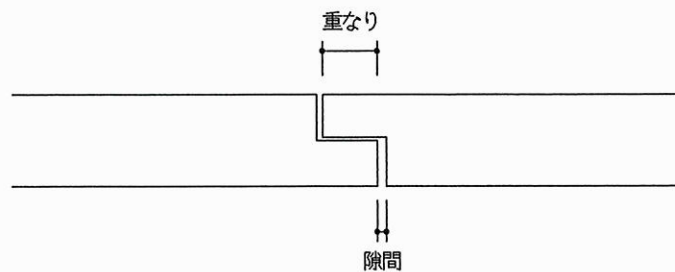


図7 目地部詳細図

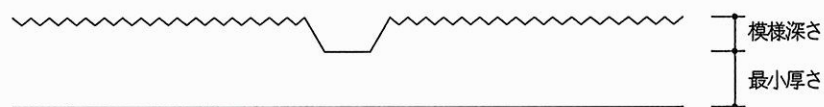
外装材の形状

単位mm

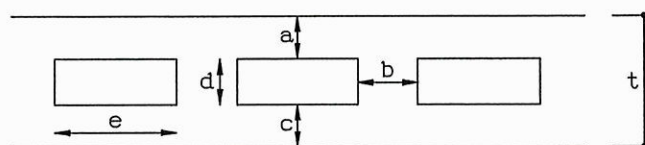
①端部形状



②断面形状



③中空品形状



厚さ t : 15以上
 a : 3以上
 b : 3以上
 c : 3以上
 d : 9以下
 e : t 以下

図8 外装材の形状図

6. 施工方法：

施工図を図9～図11に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) 軸組

- ・柱及び間柱は500mm以下の間隔で取付ける。

(2) 構造用面材の取付

- ・構造用面材を留付け材で縦張り固定する。くぎ等のピッチは周辺部100mm以下、中央部200mm以下とする。構造用面材を長さ方向に縦継ぎする場合は横目地に受材を取付ける。

(3) 防水紙の張付

- ・横張又は縦張とし、重ね代は縦90mm以上、横150mm以上とする。
- ・面材への留付けは幅10mm以上、足長10mm以上のステーブルで留付ける。
- ・張付けはできるだけたるみ、しわのないようにする。

(4) 胴縁の取付

- ・500mm以下の間隔でくぎ又はねじを用いて取付ける。
- ・外装材を横張する場合は、胴縁が柱又は間柱と通りが同じになるよう縦方向に配置する。
- ・外装材を縦張する場合は、胴縁が柱又は間柱と通りが同じになるよう縦方向に配置するか又は胴縁を柱又は間柱に対して横方向になるように配置する。
- ・胴縁寸法で不陸のないように調整する。

(5) 外装材(サイディング)の取付

- ・サイディングの張り方仕様は、縦張又は横張とする。
- ・サイディングの留付けは、スクリューくぎ、リングくぎ又はタッピンねじ留めとする。端部留付位置は板端部より20mm以上中に入った位置で、サイディングの種類に合わせた留付け材を用いて所定の位置に留付ける。
- ・取付けは、目地通りよく、不陸、目違い等のないように行う。
- ・サイディングの目地処理は以下の方法で行う。

①シーリング目地

- ・目地部には胴縁を設けること。
- ・目地幅は8～12mmになるように、サイディングをくぎ又はタッピンねじで留付ける。その溝口にシーリング材を隙間が生じないように56g/m以上充てんする。

②ハット形ジョイナーとシーリング材の併用目地

- ・目地部には、胴縁を設けること。
- ・目地幅は8～12mmになるように、サイディングをくぎ又はタッピンねじで留付ける。ハット形ジョイナーを用いて、その上にシーリング材を隙間が生じないように充てんする。
- ・シーリング材は56g/m以上充てんする。

③バックアップ材とシーリング材の併用目地

- ・目地部には、胴縁を設けること。
- ・目地幅は8～12mmになるように、サイディングをくぎ又はタッピンねじで留付ける。バックアップ材を用いて、その上にシーリング材を隙間が生じないように充てんする。
- ・シーリング材は56g/m以上充てんする。

④金属ジョイナー目地

- ・目地部には、胴縁を設けること。
- ・H形ジョイナーはサイディングをはめ込み、サイディングを留付けて押さえる。

⑤本実・合いじゃくり目地

- ・目地部には、胴縁を設けること。
- ・サイディングの重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、上実・下実のいずれかの端部は相互に密着させるように張付ける。

⑥突付け目地

- ・目地部には、胴縁を設けること。
- ・目地部においてサイディングは隙間が生じないように、くぎ又はタッピンねじで留付ける。

(6) 断熱材の充てん

- ・断熱材を壁体中に充てんし断熱材固定用留付け材で留付ける。
- ・柱又は間柱との隙間が発生しないよう注意する。

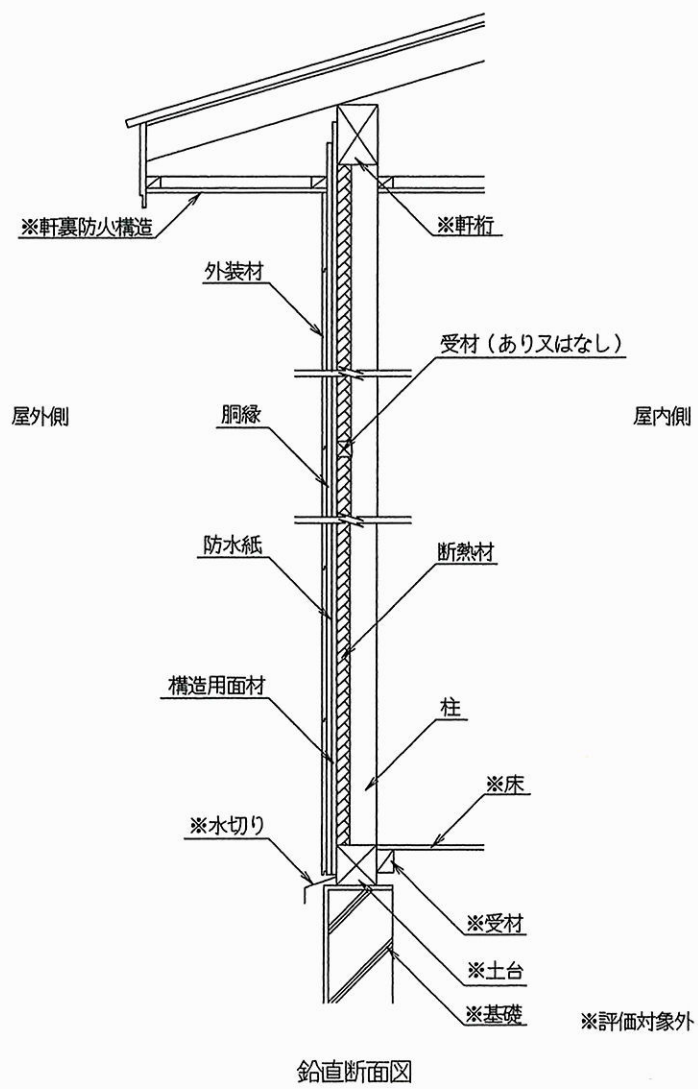
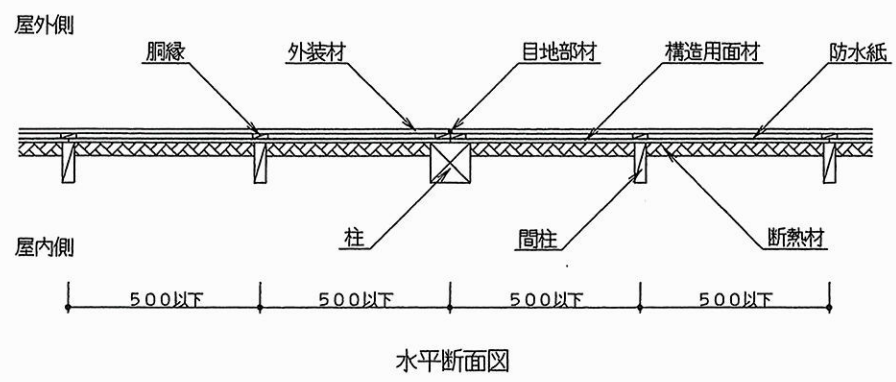
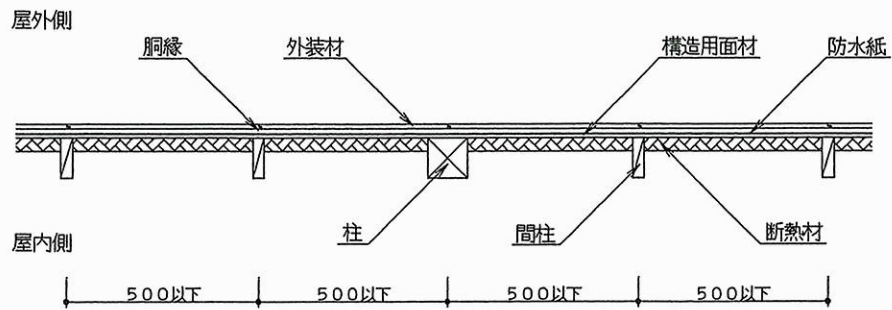


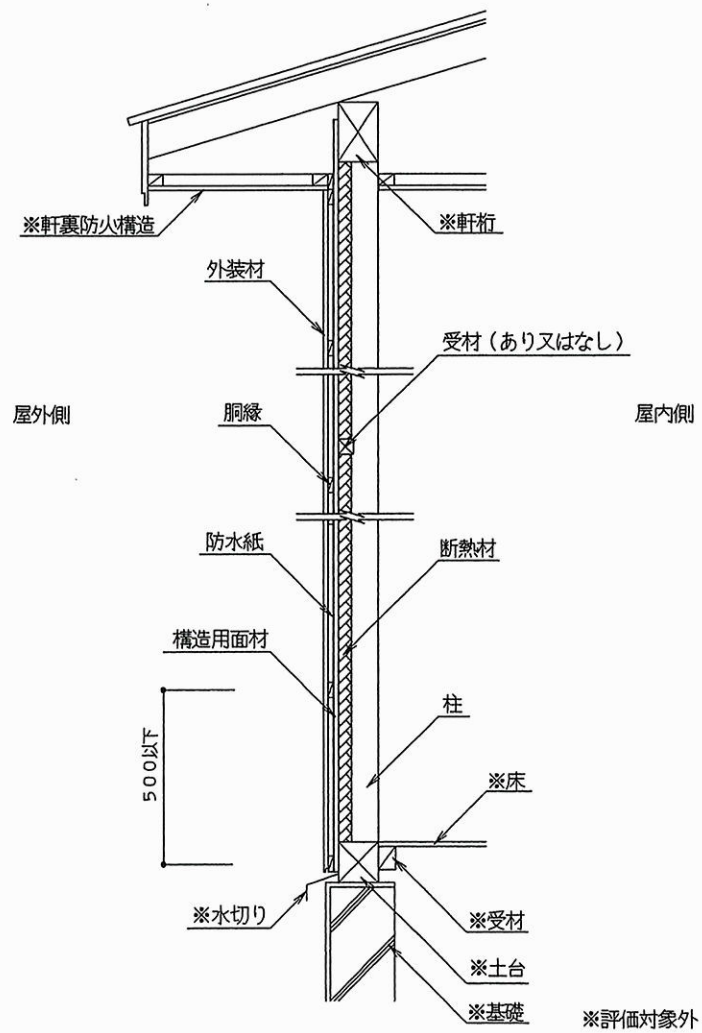
図9 施工図

外装材縦張（横胴縁）

単位mm



水平断面図



鉛直断面図

図10 施工図

外装材縦張（縦胴縁）

単位mm

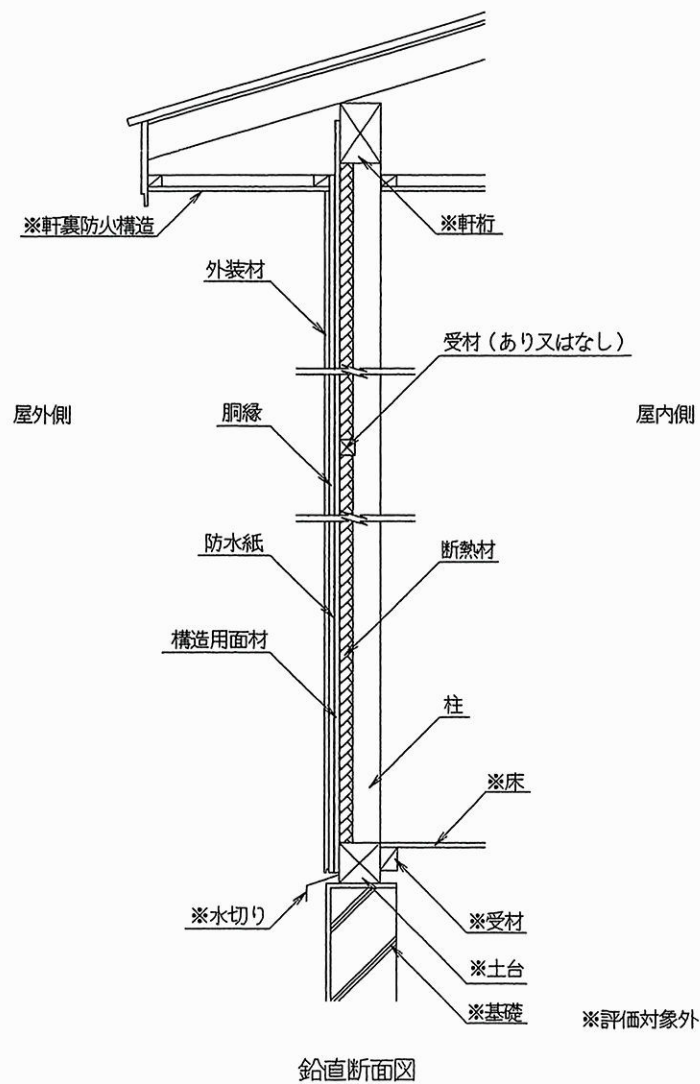
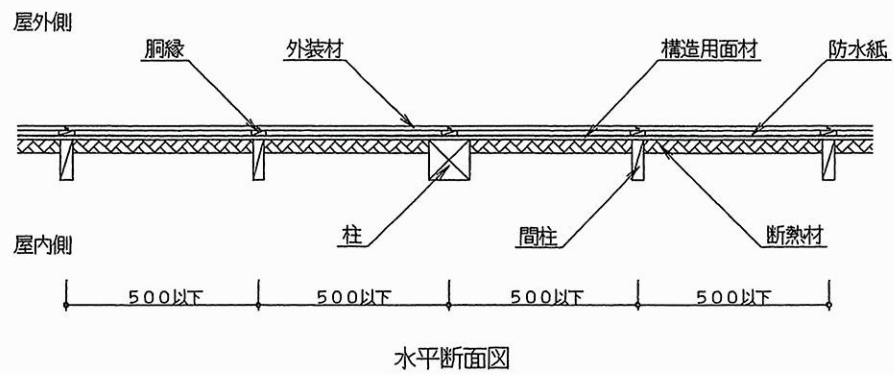


図 1 1 施工図